

これからの明専会の有り様を变革

Ⅱ 多様性活動の本格活動に向けてⅡ

明専会会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとございます。

皆様におかれましては、新しい希望のよい年をお迎えのことと拝察し、このころよりお慶び申し上げます。

この2年間、中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、あらゆる面で世の中に大きな損失を与えてきております。多くのイベントや大切なセレモニーなどが、止まった時間の間、遥かかなたに置き去りにしたままになっていますが、そういった中、明専会はZoomなどを併用したオンライン形式による理事会、委員会、部会、支部総会、支部講演会、支部長交流会、大学基金推進委員会、さらには、若手の会、新人歓迎会、Pechakucha

会、明トラ大会、明専スクール、ぶらり散策、利き酒会、ホーム・カミングデー、めいせんコン、会報のWEB配信、：等が闊達に行われました。今までは違った形で明専の絆を強くする動きが、至る場面で自主的に行われるようになりました。これは、明専会基盤強化推進の中で種まきをした絆強化活動が確実に花を咲かせ始めた証しであると実感しております。

一方、地球温暖化の影響で、昨年も日本は大雨による多大な被害が発生しました。7月3日、熱海の土砂災害は惨憺たるものでありましたが、これは単なる天災ではなく、技術倫理からして許しがたい人災そのものでもありました。8月の豪雨は嘗てなかったほどの雨量で、11日に九州北部から始まった豪雨は、中国、近畿、中部、関東に至る広範囲に亘り、死者・負傷者・家屋損壊・浸水など多大な被害を齎しました。このよう

に毎年のごとく日本の自然は破壊され続けており、何とも歯痒い気持ちになります。明専会本部は会員の皆様に自然災害やコロナ災害に対するお見舞いや被害状況をお伺いする言葉を発信しております。幸いにして、今まで会員の皆様には重大な被害がなかったことが確認できております。こういったお見舞いの発信の度に、会員の方々からも近況などの便りを多数いただき、明専の絆の強さを感じる事ができ、心温まる思いがしております。

さて、明専会の事業についてであります。既にご案内の通り、10周年記念事業（10年間事業）が、いずれも成功裏に終了を迎えることになりました。そこで、2020事業検討委員会は新たな次の10年間の事業について検討を重ねました。その結果、今年度より、次の4つの事業を本格的にスタートさせることにしました。

①大学の研究支援事業
②学生部活動応援事業
③国際ネットワーク強化事業
④明トラ活用による絆強化事業

これらいずれの事業も、明専会が主体的に企画・実施することにより、実効性の高い「会員サービス」、「大学・学生支援」に結び付けたいと考えております。

また、予てより学生・若手・女性会員の明専会への帰属性を高める活動を進めてきましたが、昨年、本格的展開の企画を立案するために「多様性推進委員会」を発足させました。明専会が持続的な発展を目指すために、ダイバーシティ（多様性）を配慮し、より多くの会員層が同窓の絆の下に集い、自由闊達な活動ができるようにすることを目指しております。大正4年（1915年）に男性会員のみで明専学生会が発会しましたが、昭和25年（1950年）に初めて女性が会員に加わりました。それから65年経った平成27年（2015年）、明専会設立100周年の時、女性役員（監事）1名が誕生しました。その後、女性役員のクォーター化の目標を掲げ、令和3年（2021年）には女性役員が4名になりました。まだまだ目標途上ではありますが、明専会報には学生・若手・女性会員による多くの記事が賑わうようになってきました。この動きを加速させて、今後の明専会の有り様をぜひ变革させていきたいと考えております。

（いすゞ自動車・理事）